

# 琉球大学学術リポジトリ

## 地域(沖縄県)に根ざした英語教育の総合的研究 ―小学校の英語教育を中心に―

メタデータ	言語: 出版者: 大城賢 公開日: 2010-02-24 キーワード (Ja): 小学校英語教育, 教員研修, イマージョン教育, 英語教育特区, 教材開発, カリキュラム開発, 教員養成, 英語教育政策 キーワード (En): Content-Based Instruction 作成者: 大城, 賢, Oshiro, Ken メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/15947">http://hdl.handle.net/20.500.12000/15947</a>

平成 17 年度～平成 19 年度  
独立行政法人 日本学術振興会  
科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書

## 地域（沖縄県）に根ざした英語教育の総合的研究

—小学校の英語教育を中心に—

（研究課題番号：17520384）

平成 20 年 6 月

研究代表者

大 城 賢

琉球大学教育学部教授

## まえがき（研究の概要）

本報告書は、平成 17（2005）年度から平成 19（2007）年度にわたって、独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究 C）を得て研究したその成果をまとめたものである。

以下に、研究の概要を述べる。

### 1. 研究題目

地域（沖縄県）に根ざした英語教育の総合的研究：小学校の英語教育を中心に

### 2. 研究組織

研究代表者 大城賢（琉球大学教育学部教授）

本研究の推進に当たっては、下記の人々の協力を得た。

Michael Bacon, Immersion Education Coordinator, Portland Public Schools

Kathryn Anderson, Principal, Richmond Elementary School

Amy Grover, Teacher, Richmond Elementary School

Yoshiko kamata, Teacher, Richmond Elementary School

Raiko Yoshida, Teacher, Richmond Elementary School

Aya Mishina, Teacher, Richmond Elementary School

Sumiko Uchida, Teacher, Richmond Elementary School

Atsuko Ando, Teacher, Richmond Elementary School

Kelly Aramaki, Principal, John Stanford International School

Tamayo Hattori, Teacher, John Stanford International School

Hiromi Pingry, Teacher, John Stanford International School

Takako Peckinger, Teacher, John Stanford International School

Harumi Cahppel, I.A., John Stanford International School

Junko Cole, I.A., John Stanford International School

Noriko Okazaki, I.A., John Stanford International School

Wakae MacLean, Hamilton Middle School

比嘉 俊博 那覇市教育委員会指導主事

上原 周子 浦添市教育委員会指導主事

上江洲 隆 宜野湾市教育委員会指導主事

喜屋武浩司 沖縄県教育庁義務教育課指導主事

### 3. 研究経費

平成 17 年度	1400,000	円
平成 18 年度	900,000	円
平成 19 年度	900,000	円
合計	3200,000	円

### 4. 研究目的

沖縄県における戦後英語教育の歴史や現在の英語教育を取り巻く社会環境は本土のそれとは異なっている。沖縄県には本土における英語教育の改革の方向や方法と共通する部分と、沖縄県独自の方向や方法が必要な部分がある。そこで、沖縄県における英語教育を、小学校の英語教育を中心にしながら、歴史的・地理的・社会的な観点から総合的に研究する。この視点からの研究は、現在のところ皆無に近く、この研究が進めば、日本の英語教育の改革にも新たな視点を提供することになる。具体的な研究の目的は以下の通りである。

- (1) 沖縄県における小学校の英語教育を、本土のそれと比較しながら、歴史的、地理的、社会的な観点から総合的に研究する。
- (2) 沖縄県における小学校英語教育の方向性と方法を示す。
- (3) 国内外の英語教育の状況を視察・研究し、沖縄県における小学校の英語教育及びイマージョン教育におけるカリキュラムや具体的な指導の方法について提案する。
- (4) 沖縄県における新たな小学校英語教育の展開のための教員養成及び現職教員研修のシステムを構築する。

### 5. 研究の特色と意義

本研究は、以下に記す研究上の特色を持ち、また教育的意義を有している。

- (1) 小学校英語教育の現状と外国語活動の導入の経緯・背景を整理した。
- (2) 2008年3月に学習指導要領が告示された。学習指導要領（小学校外国語活動）について、詳しい解説を試み、現場の先生方の参考に資するように務めた。同時に外国語活動の意義について論じた。
- (3) 言語習得の観点から、先行研究を概観し小学校の英語教育の意義について論じた。
- (4) 海外の小学校外国語教育及びアメリカの日本語イマージョン教育を調査し、今後の日本の英語教育に資する点はないか検討した。
- (5) 沖縄県における小学校英語教育の歴史を振り返り、現在の状況を那覇市と浦添市に絞って詳細に報告した。

(6) 沖縄県の今後の英語教育の発展に向けて提言を行った。

## 6. 研究経過

平成 17 年度

文献調査

アメリカの日本語イマージョンプログラムの調査

小学校英語活動の調査・授業参観

平成 18 年度

文献調査

アメリカの日本語イマージョンプログラムの調査

小学校英語活動の調査・授業参観

平成 19 年度

文献調査及びまとめ

アメリカの日本語イマージョンプログラムの調査及びまとめ

小学校英語活動の調査・授業参観及びまとめ

研究のまとめ

## 7. 本報告書の構成

第1章においては、小学校英語を取り巻く日本の英語教育の現状について概観するとともに、外国語活動導入の経緯と背景から、新しい領域である「外国語活動」について、詳しく検討した。

第2章においては、入門期としての「外国語活動」の位置づけとその意義について検討した。新しい学習指導要領では「外国語活動」が小学校の5、6年生で必修化されたが、この段階は、日本の外国語教育という枠組みからすると、外国語教育の入門期としての位置づけがなされるべきであること、また、「方略的能力」の指導という観点からみても「外国語活動」は大切な段階にあること、形式が重視されがちであった従来の日本の英語教育を「意味」を重視する外国語教育への転換を図る意味からも小学校段階での外国語活動が重要であることなどを論じた。さらに、日本国内においても、国際化が進む現状を考えると、これからの時代に必要な異文化理解とコミュニケーション能力の観点からも、小学校の外国語活動が重要になってくることを論じた。

第3章においては、小学校の英語活動が、言語習得の観点からみると、中学校や高校以降の英語教育にどのような影響や効果があるのかを先行研究に言及しながら論じた。先行研究では、小学校で培われるべきものが、どのようなものなのかを明らかにした上で評価をすることが必要であること、また、追跡調査の場合は、中学校や高等学校の英語教育の影

響を考えなければならないことなどを指摘した。また、言語習得を目的にしない英語活動であっても、実際には音声面の言語習得が起こっていることを、データを駆使しながら論じた。

第4章においては、スペイン、フランスの外国語教育の現状、及び、アメリカの日本語イマージョン教育の現状を報告した。スペイン、フランスでは近年、外国語教育の開始時期が早まってきており、外国語教育の改革も進んできている。また、アメリカの日本語イマージョン教育は、英語を母語としている人々にとっての外国語教育はどのような意味があるのかを改めて考えさせてくれる。両地域の外国語教育の現状は、今後の日本の英語教育の改革にとって参考になる点が多い。

第5章においては、沖縄県における英語教育の歴史と那覇市および浦添市の小学校英語教育の現状を詳細に報告した。必修化が確定した現在、両市の研究成果は他の地域や学校の参考になる点が多いと思われる。

最後に、沖縄県の英語教育の改革について本研究から得られた知見をもとに提言を行った。

## 付記

本報告書の内容は筆者が執筆した『小学校外国語サポートブック』（旺文社 2008年7月出版予定）及び『小学校外国語活動の展開』（教育出版 2008年7月出版予定）と一部内容的な重複があることをお断りしておく。

## 目 次

まえがき（研究の概要）

第1章 小学校英語を取り巻く日本の英語教育の現状	1
1. 外国語活動導入の経緯と背景	1
2. 外国語活動の誕生	6
第2章 入門期としての「外国語活動」の位置づけとその意義	6
1. 入門期としての「外国語活動」の位置づけ	23
2. 方略的能力の観点からみた「外国語活動」の意義	24
3. 「意味」を重視する「外国語活動」の意義	27
4. これからの時代に必要な異文化理解とコミュニケーション能力の観点から	28
第3章 言語習得の観点からみた「外国語活動」	31
1. 松川（1997）の研究	31
2. 白畑（2002）の研究	31
3. 高田（2003）の研究	32
4. 白畑（2007）の研究	32
5. 那覇市（2007）の研究	33
6. 大城・横山（2007）の研究	33
第4章 ヨーロッパの外国語教育	36
1. スペインの外国語教育	36
2. フランスの外国語教育	40
第5章 アメリカの日本語イマージョン教育	45
1. リッチモンド小学校	46
2. ジョン・スタンフォード・インターナショナル・スクール	50
3. ハミルトン・ミドル・スクール	52
第6章 沖縄県における英語教育の現状	56
1. 沖縄県の英語教育の歴史	56
2. 那覇市の英語教育	59
3. 浦添市の英語教育	68
まとめ	80